

様式1 平成28年度 山梨県立甲府西高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

| | |
|-----------|---|
| 学校目標・経営方針 | 自主自律の精神と創造性を尊び、幅広い知性と豊かな人間性の涵養を図るとともに、常に自己と社会をよく見つめ、高い理想のもと、広く社会で活躍する人材を育成する。 |
|-----------|---|

山梨県立甲府西高等学校 校長 斉木 邦彦

| | |
|----------|--------------------------------|
| 本年度の重点目標 | 1 単位制を活用した個に応じたきめ細やかな教育活動の推進 |
| | 2 学習と部活動の両立支援、活力に満ちた学校づくりの推進 |
| | 3 教育相談体制の充実を図るとともに、適切な生徒理解に努める |
| | 4 家庭・地域・関係機関との連携及び教育活動の周知 |

| | |
|-----|-------------------|
| 達成度 | A ほぼ達成できた。(8割以上) |
| | B 概ね達成できた。(6割以上) |
| | C 不十分である。(4割以上) |
| | D 達成できなかった。(4割以下) |

| | |
|----|--------------|
| 評価 | 4 良くできている。 |
| | 3 できている。 |
| | 2 あまりできていない。 |
| | 1 できていない。 |

| 自己評価 | | | 年度末評価 | | | |
|------|------------------------------|---|--|---|-----|--|
| 番号 | 評価項目 | 本年度の重点目標 具体的方策 | 方策の評価指標 | 自己評価結果 | 達成度 | 成果と次年度への課題・改善策 |
| 1 | 単位制を活用した個に応じたきめ細やかな教育活動の推進 | <p>教育課程、授業時間、土曜講座の活用、シラバス等の包括的検討と工夫改善を図る。</p> <p>授業の目標を明確にした単元設計を行い、指導の改善と評価の工夫を図る。</p> <p>他者との協働により課題解決を図る学習過程を実現し、思考力・判断力・表現力等の向上を図る。</p> <p>研修及び相互授業参観、授業公開、自己研鑽を通じて、教員の授業力を向上させる。</p> | <p>学習環境に関する生徒アンケート</p> <p>教員の自己評価、教員相互の授業評価シート、生徒授業アンケート</p> <p>教員の自己評価、教員相互の授業評価シート、生徒授業アンケート</p> <p>教員の自己評価、教員相互の授業評価シート、生徒授業アンケート</p> | <p>・生徒の実態と進路希望に対応した教育課程を編成することができたとともに、国際バカロレア導入に向けて、単位制を生かしたカリキュラムの検討を行うことができた。</p> <p>・「生徒主体の授業の実践」を主題として、授業力および指導力の向上を目指し、「やまなしスタンダード」を基準として、全職員で職員研修会や相互授業参観を実施し、アクティブラーニングをはじめ、授業改善が図られた。</p> <p>・国際バカロレア認定校の申請に向けた授業改善を目指して、全教員で「探究心・知識・思いやり」を授業の中で育成するための研究ができた。</p> | B | <p>・山梨県国際バカロレア導入検討委員会と連携し、本校の目指す教育課程を検討する。</p> <p>・これからの西高の教育の在り方としての方向性を見出す授業改善を実践していくために、職員研修会を開催し、講師を招聘し、職員間で共通認識を高める。</p> <p>・課題量、提出指導について職員間で方向性を共有し、自主的な学習とのバランスをとれるよう配慮していく。</p> |
| 2 | 学習と部活動の両立支援、活力に満ちた学校づくりの推進 | <p>部活動への積極的参加を支援奨励し、学校の活性化に努めるとともに、学習と部活動の両立支援のために、授業との有機的関連を図った課外学習の在り方について研究する。</p> <p>総合的な学習の時間について、キャリア教育や道徳教育の視点からの体系化を図り、仕事や人生を考えるとともに、生き方について考えさせる指導を充実させる。</p> <p>部活動や学校行事また学校外活動等の中で、生き方 在り方を考えさせる具体的な設定や工夫を行うための研究を進める。</p> | <p>学校評価アンケート 学習環境に関する生徒アンケート 生活実態調査</p> <p>学校評価アンケート</p> <p>学校評価アンケート</p> | <p>・授業と行事の効果的な実施を配慮して行事を配置することができた。</p> <p>・総合的な学習の時間の体系化については、年次に対応した計画が作成された結果、生徒の職業観の育成に資するところが大きかった。</p> <p>・生徒会関係の行事や活動については、生徒が自主的に運営でき、生徒自身も充実感、達成感を得ることができた。</p> <p>・自主性・自律性を高める学習指導の実現にやや課題が残った。職員団体の意識の共有と信頼関係に基づく指導体制の確立が重要である。</p> | B | <p>・教育活動は、3年間を見据え、目的・目標及び内容を明確にして実施する。質の高い学習者の育成、また、社会に出で役立つ資質や能力を様々な観点から考え、社会で必要とされる有用な人材となるべく努力する生徒の育成を目指す。</p> <p>・他者、教員からの働きかけで自らの行動や生活を律するのではなく、生徒自らが目標とする理想像に近づくために、自らの力や意思で学習面から生活面まで律することができる生徒の育成を目指す。</p> |
| 3 | 教育相談体制の充実を図るとともに、適切な生徒理解に努める | <p>管理職、各年次主任、生徒指導主事、保健指導主事等で構成する校内委員会の位置づけを明確にして有機的に活用する。</p> <p>必要に応じて、「支援計画」を作成し、家庭とも連絡を取り合う中で、一貫した指導方針のもと、生徒一人一人の自己実現が図れるように働きかける。</p> <p>相談室の利用状況を全職員が把握し、個々の生徒に関する情報の共有化や共通理解を図る。</p> | <p>学校評価アンケート</p> <p>学校評価アンケート</p> <p>学校評価アンケート</p> | <p>・生徒や保護者との面接相談、生徒支援のための委員会における生徒情報の共有、また、担任や教科担当、部顧問、年次との情報好感や問題意識の共有が、生徒の学校生活への適応力を高めることにつながった。</p> <p>・職員が共通理解を持つことでサポート体制がより整った。</p> <p>・学校評価アンケートの結果から、教育相談やカウンセリング体制が一部の生徒、保護者に理解されていないケースが見受けられる。</p> | B | <p>・生徒が主体的に自らの心身の健康状態の把握と安全を確保し、充実した学校生活を送ることができるように、年次や家庭と協力しながら、生徒理解や個に応じたサポート体制をさらに強化なものにしていく。</p> <p>・年度当初と、三者懇談期間に合わせて、教育相談やカウンセリング体制についての理解を深めてもらうため、生徒・保護者あてに文書の配付をする。</p> <p>・教員による安全点検のみならず、生徒目録による安全点検を実施する。</p> |
| 4 | 家庭・地域・関係機関との連携及び教育活動の周知 | <p>保護者への授業公開や、学園祭への地域住民の参観、異校種交流を促進するとともに、学校を知ってもらうための工夫について研究する。</p> <p>学校ホームページや各種たよりによる情報発信の在り方を工夫し、情報発信ツールとしてのホームページの充実を図る。</p> | <p>学校評価アンケート 参加者数 参加アンケート 志願者数</p> <p>学校評価アンケート HPへのアクセス数 志願者数</p> | <p>・できる限りタイムリーにブログなどを利用し、情報発信に努めたが、定期的に重なる行事等もあり、更新が遅れるときがあった。</p> <p>・部活動の更新主体を生徒に任せるために、生徒へのICT講習会を実施することにより、情報のミスマッチがなくなった。</p> <p>・広報誌の発行、学校説明会、オープンスクールを通して、中学生の関心を高めることができた。分掌の枠を超えて、委員会組織を中心に全校的な取組への改善を進めることで更に成果をあげる。</p> | B | <p>・タイムリーな情報発信のための更新を、年次・分掌・生徒等の協力体制で取り組む。</p> <p>・学校行事へのPTAの協力態勢について、役員のみならず一般の保護者にも広く協力を呼びかけていく。</p> <p>・生徒主体のクリエアティブ活動や、ボランティア活動など、地域に積極的に関わる活動を推進する。</p> |

| 学校関係者評価 | |
|-----------------|--|
| 実施日(平成29年3月10日) | |
| 評価 | 意見・要望等 |
| 3 | <p>単位制の特徴が生きてきているかは判断できない。生徒一人一人の進むべき道に応じて選択肢が多く準備されることで安心して高校生活が送れると思う。国際バカロレア導入を機に、多様な学習歴や多様な背景をもつ生徒への対応、少人数でも開講される選択科目を増やすなど、単位制を生かしたカリキュラム作りを期待する。各教員が個性を生かして大変熱心に教育に取り組んでおり、生徒も勤勉な学校生活を送っている。クラスの枠を超えた授業の組み方もとても良い。そのような環境の中で、教員、生徒、保護者ともに国公立大学志向が強いが、幅広い選択肢があることを教え、幅広い選択肢を認める雰囲気を作ってほしい。偏差値でみた大学の序列はその後の長い人生では必ずしも大きな意味を持たない。入試の難易度という視点のみで進路を決めるのではなく、個人の適性にあった道へ進めるよう、個性を伸ばす指導、教育を期待する。</p> |
| 3 | <p>校長のリーダーシップのもと、教員が生徒の思いに寄り添いながら日々の指導に取り組んでいる姿を見ることができた。進学校における部活の在り方は大変難しいと理解しているが、教員一人一人が、生徒の学力や学習への取組姿勢、部活への意欲に目を配りながら、生徒の個性に磨きをかけて指導を続けてもらいたい。一方で部活をもう少し減らして学習に目を向けさせてほしいと考えている保護者の存在も理解すべきである。西高の校風としては自由闊達なところがあると思うが、特に鳳凰祭の雰囲気は非常に良いと感じる。生徒にとってかけがえのない青春時代は、クラスメイトや部活動の仲間と過ごした思い出があつてこそと考える。集団行動の大切さ、協力・協調の重要性を学校生活の中で感じることができるような行事の実施など、西高のさらなる活性化につながるような指導、生徒への支援とともに、ぜひ、生徒が3年間楽しかったと思える高校生活を送れるよう、今後ともお願いしたい。</p> |
| 3 | <p>長期欠席者、中途退学者の増加が気になる。中学の後半から高校の前半にかけては心身ともにバランスを崩しやすい時期でもあり、高校入学後は劣等感を感じて、病む生徒も出るであろう。複雑な家庭環境を持つ生徒の増加が教育相談数の増加につながっている一因である一方、日頃の生徒理解がベースにある相談しやすい環境が整っているからこそであるとも言える。カウンセラーの充実や心配、担任以外にも相談しやすい態勢を構築し、学習に関する不安や心配、人間関係の悩みなど、思春期の生徒たちが抱える様々な悩みを気軽に相談できる態勢の強化に努めてほしい。例えば長期欠席者が1年遅れても普通に復帰できるような、皆がそれぞれの個性や多様性を受け入れられる雰囲気や学校全体で築くことも必要。長い時間をかけて醸成すべき文化であろう。</p> |
| 3 | <p>地域の避難訓練への合同参加をはじめ、様々な連携や広報活動が行われていることは、学校における諸問題の解決の意味でも重要である。生徒にとって有益であることや、様々な成果をもつてアピールすることで、西高が多くの人から愛される人気のある高校であつてほしいと思う。そのためにもHPの更なる充実、広報誌の配布先の拡大、SNSを利用した情報提供の検討等が必要である。可能であれば、他校との連携を進めて、生徒同士の交流や教員間の情報交換に努めたり、地域の市民活動やボランティア活動にも積極的な参加を期待したい。また、確実な情報伝達として紙ベースのものやデータベースのものを併用するなどの工夫を求めたい。</p> |

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。